ペットのための災害対策

全米にはペットを飼っている人が何百万人もいますが、飼い主にとってペットとは、家族の大切な一員です。 災害の手からペットを守る最善の方法は、災害時に飼い主が自宅に残るか避難するかに関わらず、ペットに関する計画を明確にした災害計画を立てることです。

飼い主が避難する場合、ペットを自宅に残すと多くの場合、ペットの負傷や迷子、さらに最悪な結果を招いてしまいます。 ペットを守るために飼い主ができることで、最も重要なことは一緒に連れて行くことです。 しかし、多くの避難場所は、赤十字を含め、ペットを受け入れることが出来ません（介助動物を除く）。これを理解することは重要です。 このため、ペットを安全な場所に連れて行くための計画を予め立てる必要があります。

ペットのための避難計画を立てるための秘訣

前もって避難場所の計画を立てる

- ペットが最新連絡先等が記載された ID を常時着用しているようにしましょう。 自分の地域以外にいる友人や親戚の電話番号も含めて記載します。
- ペットを連れて行く先を確保するため、前もって計画を立てましょう。
- 自分の地域以外のホテルやモーテルに問い合わせ、非常時のペットの受け入れ方針を確認しましょう。 動物を収容する可能性のあるペット用宿泊施設や動物医院を特定しましょう。 それらを記載したリストを作り、避難する必要性を感じたらすぐ、予約の電話を前もって入れましょう。
- また、自分の地域以外の友人や親戚に、ペットを預かってもらえるか尋ねましょう。
- 2 匹以上ペットがいる場合は、別々に収容する覚悟が必要です。

災害時のペット必需品キットをまとめる

すぐ手の届くところに必需品を、しっかりした容器に入れて常備します。 次のものを入れましょう。

- 丈夫なペット用ひも、ハーネス、クレートまたはキャリア
- 耐水性容器に医薬品、医療記録、獣医の電話番号を入れたもの、および救急箱
- 3 日分の餌と持ち運び用水、器、ネコ用トイレ箱、缶切り
- ペットの現在の写真（迷子になった場合）
- 簡単に持ち運べるものなら、ペット用ベッドやおもちゃ

災害が近づいたら

- 災害の警報や警告に注意しましょう。 災害の兆しが現れたら即、ペットを守る手順を取りましょう。
- 自分とペットの避難先に電話を入れ、確認を取ります。
- ペットの災害必需品を確認し、いつでも避難できるようにしましょう。
- 全てのペットを家の中に入れ、急に家から避難する必要が生じた場合にペットを探し回る必要がないようにしましょう。
- 出来れば前もって、自分が不在の場合にペットを連れて行ってくれる近所の人やペットシッターの手配をします。
- 非常時の連絡先の名前と電話番号を、ペットの首輪または ID タグに取り付けます。

ペットのための災害対策

ペットのための避難計画を立てるための秘訣

避難所に行き着くまでと、災害の後で

- ストレスを受けると、動物はいつもと異なった行動をすることを念頭においてください。
- イヌは、自宅内と車内にいるとき以外は、確実にひもでつなぐか、キャリアに入れましょう。 ネコは、キャリアに入れて運びましょう。
- ペットは、決して逃げ出せるようなところに放置しないようにしましょう（ペットがパニック状態に陥ったり、隠れたり、逃げ出したり、噛み付いたり、引っかいたりすることがあります）。
- 避難後自宅に戻ったら、ペットが普段の生活を取り戻すまで時間をかけて見守りましょう。
- ペットを放し飼いの状態にしてはいけません。 慣れ親しんだ近所の目印や匂いが失われ、ペットが方向感覚を失ったり迷子になってしまう可能性があります。

飼い鳥

- 鳥は、しっかり閉まる持ち運び用鳥かごまたはキャリアに入れて運搬しましょう。
- 寒い時には、鳥かごを毛布でくるみ、車内を暖めてから鳥を車に入れましょう。

- 暑いときには霧吹きを持参し、鳥の羽に霧を吹きかけてやりましょう。
- 運搬中は、鳥かごの中に水を入れないようにしましょう。
- 水分を多く含んだ野菜や果物を薄切りにしたものを、何切れかやりましょう。
- 写真入り「ペット身分証明書」と足輪を用意しましょう。
- キャリアを静かなところにおき、鳥を放たないようにしましょう。

爬虫類

- ヘビは枕袋の中にいれて運搬することができますが、いったん目的地に着いたら、しっかり閉まる収容容器に入れる必要があります。
- ペットのヘビが必要とする食物を持参しましょう。
- 大きなヒーティング パッド（加熱パッド）と水浴用の水入れを持参しましょう。
- ペットのトカゲ類を運搬する場合は、飼い鳥の運搬法に従ってください。

ペットを一緒に連れて行くことが出来ない場合は、外で鎖につないだままにしたり、放したりしてはいけません。 家の中に入れ、十分換気されている窓のない部屋（洗濯室やガレージ等）に置いておきましょう。 普段仲がよい場合でも、イヌとネコは別々に収容しましょう。 こぼれない容器または自動給餌器に入れたドライフードと新鮮な水のみ残しておきましょう。 （一気に食べすぎるのを防ぐために、ペットがあまり好きではない餌を置いてやることも一つの案です。） 扉には、家の中にいる動物の数を示す張り紙を張りましょう。